

**Q5：英語活動を指導する際に、どのような点に気を付けたらよいですか？**

**A：** 英語活動を指導する際には、「英語活動の基本的な構え」を十分に踏まえて、指導に当たりたいものです。

**1 「英語活動の基本的な構え」とは？**

◎英語嫌いをつくらない！！

- (1) 「英語を覚えること」よりも、「英語を進んで使おうとする意欲」「英語を使って積極的に他者とかわろうとする態度」「外国の人の暮らしなどへの関心」を育成する。
- (2) コミュニケーションの手段として英語を使うことを目的とした活動を楽しむことを中心とする。
- (3) 実際の体験や疑似体験を通して英語に慣れ親しむようにする。
- (4) 児童の日常生活に身近で興味・関心のあることを題材とする。
- (5) 文字でなく、音声を中心とする。

では、これらのことを基にして、指導を実際に行う際の留意点を考えてみましょう。

**2 指導に際して留意することは？**

- (1) 「覚えなければならない」という心理的な負担感を与えないようにしましょう。
  - ・無理に文型や語彙を覚えることを求めたり、テストを行ったりしないことです。
- (2) 「間違えても大丈夫」「忘れても大丈夫」という意識を大切にしましょう。
  - ・必要以上に「正しさ」を求めず、誤りを細かく訂正しないことです。  
(内容が伝わる範囲であれば、発音や文法の誤りがあっても許容する。)
  - ・言い間違えたり、発音や表現を忘れたりしても、児童が自分で気付いて言えるように指導することです。  
(活動に行き詰まった時に助けとなるヘルプコーナー [絵カードやテープレコーダーやCD等] を用意しておく。)
- (3) 活動を通して英語の表現に自然に慣れるようにしましょう。
  - ・英語の表現や発音は、歌やゲーム等の活動を通して、自然に何度も聞いたり、発音したりすることで、慣れるようにすることです。
  - ・新出の言語材料は必要最小限にして、児童に負担感を与えないようにしましょう。  
また、中心となる活動を行う前に、多様な活動を通して繰り返し使う機会を設けて、表現に慣れるようにすることです。
  - ・指導者はできる限り英語で活動を進めることです。  
(指示の英語や評価の英語など、どの時間にも用いるような英語や基本的で応用のきく英語は、教室英語として日頃から積極的に使うようにする。)
- (4) 一人一人のよさや伸びを積極的に評価するようにしましょう。
  - ・一人一人の児童の実態に応じて、できたことやできるようになったことを大いに認めて励ますことです。(活動中でも、終末の評価でも)

- (5) 教師が一人の学習者としてのモデルを示すようにしましょう。
- ・学級担任は、英語を積極的に使うように心がけ、「なんとかして相手に英語で伝えよう」とする学習者のモデルとして児童に接することです。  
(必要に応じて、教師自身も活動に参加し、自ら活動を楽しむ。)
  - ・学級担任は、一人で授業を行う場合もあるので、ALTとの交流や研修会等の機会を通して、英語に慣れ親しむようにすることは大切です。
  - ・ALTやJTE（日本人英語教師）、地域人材講師は、児童が憧れをもてるような話し手、聞き手のモデルを示すことです。
- (6) 音声を中心とした指導をしましょう。
- ・児童の学習にとって負担にならないように、基本的には文字の指導は行わないようにすることです。  
(児童の興味に応じて、視覚を通して文字に触れることは構わない。)
- (7) ALTの英語を逐一日本語に訳したり、英語の発音をカタカナに置き換えたりしないようにしましょう。
- ・最初から全部分からなくても、大体何を言っているのかが分かったという経験を児童がすることが大切です。
- (8) 小道具となる教具や学習環境を工夫しましょう。
- ・教師が、活動に合った服を着用したり、小道具を用意したりする。  
(ALTにサンタクロースのコスチュームを着てもらったり、活動時にワークシートに貼り付けるカラフルなシールを用意したりする。)
  - ・季節や活動に合った教室環境を整えることです。  
(ハロウィーンの飾り付けをしたり、過去に活動で用いた絵カードを掲示したりする。)
- (9) 楽しい活動の中でも、学習規律を大切にして継続的に指導しましょう。
- ・遊び感覚で楽しい活動を推進することを求めるあまり、学習規律がおろそかになってはいけません。活動を大切にするからこそ、学習規律へのこだわりが一層大切となります。特に「話し方」「聞き方」「活動の変わり目のけじめ」等には、こだわりをもち、躊躇せずに指導したいものです。